

# 九条北小学校 校長室だより

NO.80 令和3年2月1日



2月に入りました。2月のことを「如月（きさらぎ）」ともいいます。まだまだ寒さが厳しい時期のため更に衣を重ね着するという意味と、寒い冬が終わり春に向かって万物が動き始める時期という意味があるといえます。九条北小学校に春が訪れるのが待ち遠しいですね。

今日の児童朝会では、「節分」について話をしました。

## ★「124年ぶりの珍事」～節分が2月2日に★

「節分」と言えば2月3日・・・のはずですが、今年の「節分」は2月2日ということ、知っていましたか？

1897年（明治30年）以来の**124年ぶりに2月2日**になるそうです。これは、地球が太陽を回る周期と暦のずれによるものとか。つまり、太陽が地球の真南から真南まで周る時間を1日の長さとしているのですが、日によって微妙に違っているため、少しずつずれていくのだとか・・・。

ところで、「**節分**」は「**立春**」の**前の日**にあたります。なので、今年の「立春」が2月3日です。「立春」とは、ここから春になりますよという日ですね。実は、「節分」の本当の意味は季節の節目ということで、年に4回あります。「立春、立夏、立秋、立冬の前日」です。季節の分かれ目ですね。

昔から、季節の分かれ目、特に年の変わり目には邪気（悪いもの）が入りやすいと考えられており、さまざまな邪気祓い行事が行われてきました。



どんな行事があるかと言えば・・・。

まず、「**豆まき**」でしょうか。

「豆まき」は、古代中国で行われていた「桃の木で作った弓矢を射って、鬼を追い払う行事」が、奈良時代に日本に伝わり、平安時代に宮中行事として取り入れられました。その行事のひとつ「豆打ち」の名残が「豆まき」で、江戸時代に庶民の間に広がったそうです。

「豆まき」についてですが、

昔の人は、形の見えない災害、病、飢饉など、人間の想像力を越えた恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えていました。豆を煎ることで「魔の目を射る」ことに通じるため、煎った大豆を使いました。これを「福豆」といいます。

「豆まき」の方法や地域によって違うようなので、調べてみると面白いですよ。

次に、「**恵方巻**」もよく聞きますね。

恵方巻は、その年の恵方を向いて丸かじりすると願い事が叶い、無病息災や商売繁盛をもたらすとされる縁起のよい太巻きです。実は、大阪発祥の風習ですが、関西地方で親しまれ、現在は全国的な広がりを見せています。

**ほかにもあるので、お家の人に聞いてみよう。**

